

若年層への情報提供に向けて押さえない ライフプランニングの基本とポイント

前 回、家計管理のポイント

は、収入から支出を差し引いた残り（収支）をプラス（黒字）にして、その黒字分を貯蓄すること——と解説しました。なぜ、貯蓄しておく必要があるかというと、将来の支出に備えておくためです。

「将来の支出」には、ケガや病気といった突発的なものから、旅行や引越しなど、比較的近い未来に関わるもの、住宅の購入や老後の資金など、長期的に考える必要があるものまで、様々です。

お金のことも含めて、自分の将来の暮らし方を考えること、つまり「ライフプランニング」が重要です。

・ライフプランニングのポイント
ライフプランニングとは、「人生の希望や計画を具体的に時系列

で描くこと」です。

自分の仕事のこと、家族のことなどについて、「人生設計」や「将来設計」を具体的に考えていきます。

みなさんが思い描く将来は様々で、だれにでも当てはまる「正解」があるわけでもありません。そのため、私たち1人ひとりが「自分はどうしたいか」を考える必要があるのです。

今回は、ライフプランニングを行ううえで大きなポイントについて、いくつか説明していきます。

働き方による違いを踏まえ どう働くか考えて選ぶ

①働く
「ライフプランニング」の中核を占めるのが、「働く」ということ

が、必要になる金額は、その人によって異なります。

例えば、子どもの教育費用であれば、子どもの人数、公立か私立か、大学や大学院に行くか、住む地域や自宅通学か等によっても大きく異なります。また、自身の留学や資格取得のための資金も含まれる場合もあります。

住宅費用についても、一戸建てかマンションか、どの地域に住むか、購入するか借りるか等、様々な選択肢があります。

老後費用については、まず前提として、日本は高齢化・長寿化が急速に進んでいて、「人生100年時代」ともいわれています。何歳まで働き、何歳まで生きるか、また、その人のライフスタイルによっても、必要な金額は異なってくるのです。

③シミュレーション

何を考えればよいかは何となくわかったものの「お金がどうなるのかわからない」という場合は、シミュレーションをしてみましょう。ここでは、若い人向けの

です。なお、ここでいう「働く」とは、企業などに勤めることだけでなく、起業したり、フリーランスで仕事をすることも含みます。

また、パート・アルバイトや副業など、色々な働き方も含みます。生きていくにはお金が必要で、多くの場合、働くことで、そのためのお金を得ます。また、働く時間は人生の時間の大きな割合を占めます。このため、どのように働くかで、人生の充実感が大きく左右されます。

どのような働き方を選択するかは、その人の考え方や状況次第ですが、雇用形態によって労働時間や昇給、福利厚生、社会保険制度など、様々な違いがあります。

例えば、正社員と正社員以外の年収の違いをみると、統計から試算したデータでは、正社員の場合、

簡素なシミュレーターを紹介します（※）。

ほかに、より細かい条件を設定できるシミュレーターが色々なところから公開されていますので、気になった人は調べてみてください。

ここまで、ライフプランニングについて説明してきましたが、もう1つ重要なのは、「1度考えたら終わり」ではないということです。夢や希望が変わったり、状況が変化したりした場合は、柔軟に見直していくことが必要となります。

88

今回のポイント

- ライフプランニングを行ううえでは、「働く」「人生の3大費用」「シミュレーション」の3つがポイントになる
- ライフプランニングは、夢や希望が変わったり、状況が変化したりした場合は、柔軟に見直すことが必要となる



※ライフプラン
シミュレーター
(金融庁作成)



Profile

中村香織
金融庁総合政策局総合政策課
総合政策管理官

なかむら・かおり●2020年7月より、金融経済教育等を担当。子ども向けの学習ドリル「うんこドリル」と連携した、小学生向けコンテンツ「うんこお金ドリル」の作成にも携わる。

「金融経済教育」の時代に必須の取組み！
若年層取引 につなげる
情報提供
若年層の金融リテラシーの向上や次世代取引につなげるために、行職員が押さえておきたい金融・経済にまつわる知識などについて、教育関連現場の視点も交えて紹介します。